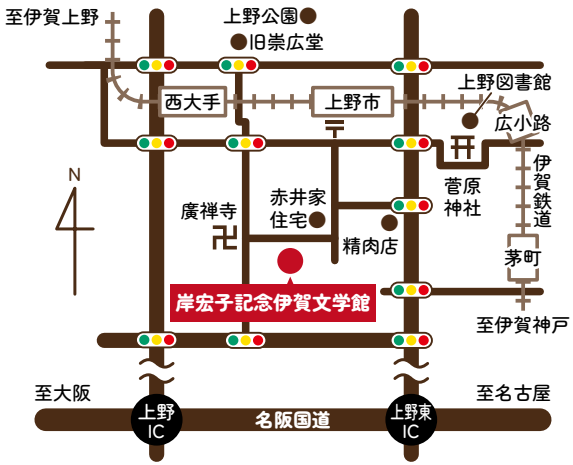
作家 岸宏子 略年譜

1922（大11）	５月５日、旧阿山郡上野町に生まれる 父は作家横光利一の従兄弟
1939（昭14）	阿山高等女学校を卒業 信用組合に就職するも家業に従事
1942（昭17）	20歳 「醜女」が日本厚生協会主催・勤労文化賞受賞
1948（昭23）	同人誌「山望」の編集人に
1949（昭24）	エッセイ集『いのちが青くもえている』
1950（昭25）	NHK大阪のラジオ番組「おやつの時間」の脚本を書く以後、ラジオドラマの脚本を多数担当する
1954（昭29）	NHKラジオで「蒲団」、「刺青」、「出家とその弟子」などの名作を脚色。初の民放のドラマをCBCで放送
1960（昭35）	東海テレビで初のテレビドラマ放送 翌年にはNHKでも放送
1962（昭37）	40歳 「輪中」芸術祭参加
1965（昭40）	小説『ある開花』
1966（昭41）	「熱田の弥兵衛」でNHK第１回本部芸能局長賞
1968（昭43）	「はだかの功徳」（芸術祭奨励賞） 「安達ヶ原」 東宝喜劇「売らいでか」初演 東映映画「夫売ります」
1969（昭44）	劇団名俳「女人堤防」 読売TV「売らいでか」
1970（昭45）	「ブルムハウス」（芸術祭大賞）日曜名作座
1973（昭48）	東海ラジオ連続ラジオ小説「水の勲章」150話 以後、次々と連続ラジオ小説を書き、放送と出版で発表。上野農業高校校歌作詞・81年歌碑
1974（昭49）	連続ラジオ小説「円空」、「若き日の芭蕉」 それぞれ150回
1977（昭52）	TV銀河「巣箱」（ギャラクシー賞脚本賞）
1980（昭55）	東海ラジオ「おまさ黒い」（放送文化基金賞）
1981（昭56）	NHKテレビ銀河小説「祈願満願」 CBC１「木っ端聖円空」CBCクラブ文化賞 **伊賀市市政功労者賞** 読書会発足
1987（昭62）	TV銀河「名古屋ラブソング」、FM「ドアを叩くのは誰」
1990（平２）	**紫綬褒章** 「不熟につき」（ギャラクシー賞） 『江戸管理職エレジー』 エッセイ集『嘘と明日があればこそ』
1992（平４）	70歳 CBC「もう一度逢いたい」（民放祭賞）
1993（平５）	NHKBSで初のハイビジョンドラマ「幻 源氏絵巻」
1995（平７）	**勲四等宝冠章** NHK放送文化作家賞
1999（平11）	上野高校創立百周年 横光利一記念碑揮毫
2004（平16）	『真説今昔物語』
2007（平19）	句集『いくばくの妬心いまだあり』
2010（平22）	著作資料を上野高校同窓会文庫へ寄贈 読書会解散
2014（平26）	92歳 12月２日 死去

ラジオ、テレビ作品数　355作以上/放送回数 約2,800回以上　著書　29作品

東宝舞台劇「喜劇　売らいでか！」（原作『ある開花』/脚本・花登筐/主演・浜木綿子）　上演回数 約550回以上



車でお越しの方

名阪国道上野東インターから北へ約10分

電車でお越しの方

伊賀鉄道 上野市駅から徒歩約10分

岸宏子記念伊賀文学館

〒518-0854 三重県伊賀市上野忍町2435番13

入館・観覧　無料

開館時間　土・日曜日 午前9時～午後4時30分

施設利用案内

文芸活動や小集会などに施設を利用いただけます。
事前に申請が必要です。

ご利用時間	月～金曜日　午前９時～午後４時30分 ※休館日：12月29日～１月３日		
利用料金	午前９時～正午まで	１回	400円
	午後１時～午後４時30分まで	１回	500円
	午前９時～午後４時30分まで	１回	1,000円

施設利用申込・問合せ　0595-51-9956

（公財）伊賀市文化都市協会

0595-22-0511　0595-22-0512

https://www.bunto.com

伊賀市 企画振興部文化振興課

岸宏子記念伊賀文学館

この文学館は、作家 岸宏子が終生執筆活動を続けた自宅を改修し、2023（令和5）年12月に開館しました。岸宏子が過ごした日々に思いを馳せていただけるよう、なるべく当時の雰囲気を残す空間にしています。

岸作品をはじめとした文学作品に広く親しむ場として、また、文化芸術の創造につながる交流の場として、たくさんの方にご利用いただくことを願っています。

岸宏子紹介展示コーナー　ふるさと伊賀で創作し続けた作家

▲自作の台本をまえに（1980年頃）

作家 岸宏子（1922～2014）は、旧阿山郡上野町（現伊賀市）に生まれ、父は文豪 横光利一の従兄弟にあたります。

終生、伊賀上野で執筆活動を続け、伊賀もたびたび小説の舞台になっています。

1942年、20歳の時に、小説『醜女（しこめ）』が日本厚生協会主催の勤労文化賞一席に入賞。戦後には、放送作家、小説家として活躍し、ラジオ、テレビでの放送作品は355作を超え、放送回数は延べ2,800回を超えています。

さまざまな功績により、紫綬褒章（90年）、勲四等宝冠章（95年）を受章しました。

1998年には横光利一生誕100年記念のイベントに尽力し、このイベントは後の「〈雪解（ゆきげ）〉のつどい」へとつながっています。

▲入賞作の掲載誌

▲自筆原稿

▲愛用の品々

出世作「ある開花」

岸宏子の小説での出世作といえるのが、『ある開花』（1965年）です。

この作品はTVドラマや「喜劇 “夫”売ります!!」のタイトルで映画にもなり、舞台劇「喜劇 売らいでか！」は1968年の初演から公演回数550回を超えるロングランとなりました。

▲「ある開花」復刻本

2022（令和４）年に岸宏子生誕100年を記念し、この作品の復刻本を刊行しました。

あらすじ

伊賀の伝統工芸品である組紐の織り子をしていた主人公が、組紐の売値に対する織り賃の安さに気付きます。

勤め先の女主人に誘惑されていた夫をその人に売り、そのお金を元に組紐の問屋を始めますが…。

伊賀の風景や生活などの中で繰り広げられる人間模様が描かれています。

伊賀市ゆかりの作家紹介コーナー

岸宏子のほか、伊賀市ゆかりの文学の分野で活躍する人物について紹介しています。

横光利一
（1898-1947）

大正から昭和にかけて活躍した小説家で「小説の神様」とも呼ばれます。幼少期を伊賀ですごしました。

代表作

『機械』『旅愁』『雪解』